開講年度	令和６年度	開講課程	博士課程
授業名	多職種連携B		
開講キャンパス	紀三井寺・伏虎	教室	基礎教育棟３階講義室３ 中講義室３０３
科目区分	共通科目	配当年次	１年次
必修・選択の別	必修	単位	１単位
対象学生	―	使用言語	日本語
キーワード	多職種連携、在宅医療、リハビリテーション診療、医療安全、医科歯科連携、薬学的研究、薬物療法、専門性、情報共有、チーム医療、就労継続支援		
担当教員 （下線：科目責任者）	医	准教授　幸田　剣、教授　村田顕也、<u>教授　松村達志</u>、准教授　水本一弘	
	薬	教授　松原和夫、教授　江頭伸昭、准教授　山田孝明	
	保	教授　辻あさみ、教授　水田真由美	
授業の概要	地域の保健医療課題の解決においては、各分野を専門とする医療従事者の連携が重要である。本講義では、医学、薬学、保健看護学の観点から多職種連携の実践に係る手法・知識を修得することを目的とする。		
到達目標	□チーム医療における医師、看護師、保健師、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士などのシームレスな多職種連携を実践するための具体的なシステム構築について理解する。 □多職種連携・チーム医療が医療安全に貢献するために必要な手法、戦略を修得する。 □周術期を中心とした医科歯科連携の重要性を高い知識レベルで理解する。 □多職種連携における薬学的研究を理解する。 □多職種連携における薬剤師の重要性及び適切な情報共有の必要性について理解する。 □治療と就労の両立を支援する仕組みについて考察できる。		
授業計画	１．チーム医療における薬学的介入と情報共有のあり方Ｂ（松原和夫／１回）【5/9 6限】 多職種連携における薬剤師の重要性について学び、連携には適切な情報共有が必要であることを事例を踏まえた形での講義を行う。 ２．多職種連携による急性期リハビリテーションの実践（幸田　剣／１回）【5/9 7限】 リハビリテーション診療において重要な多職種連携を実践するための急性期リハビリテーションのシステム構築について解説する。 ３．多職種連携の概論（村田顕也／１回）【5/16 6限】 脳卒中･心不全患者を対象として医師、看護師、保健師、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士などの多職種が連携して急性期病院から慢性･療養期治療までのシームレスな診療体制を構築する方法を学ぶ。 ４．周術期を中心とした医科歯科連携の実際（松村達志／１回）【5/16 7限】 周術期を中心に、その他想定されうる臨床現場での医科歯科連携について講義する。 ５．多職種連携に必須であるノンテクニカルスキルの基礎と応用（水本一弘／１回） 【5/23 6限】 多職種連携に必須であるノンテクニカルスキルの基礎を理解し、実践のための手法を修得する。		

授業計画	６．病をもつ人々への就労継続のための支援（辻あさみ／１回）【5/23 7限】 病をもつ人への就労支援の実際から課題を検討し、具体的な支援方法を考察する。 ７．チーム医療における看護職の役割B（水田真由美／１回）【5/30 6限】 チーム医療における看護職の役割について講義し、チーム医療における医療従事者の連携について理解を深める。 ８．チーム医療における薬剤師の関わりB（江頭伸昭／山田孝明／１回）【6/6 6限】 高度化する薬物療法および複雑化する副作用のマネジメントに対する薬剤師の関わり及び多職種連携における薬学的研究について解説する。
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の５段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】授業計画１ 「地域包括ケアで薬立つ4 Elements実践ガイド」　編集：京都大学医学部附属病院薬剤部　出版社：南山堂 授業計画２ 「総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト」 総編集：久保 俊一、田島 文博　出版社：日本リハビリテーション医学教育推進機構 授業計画３ 「老年医学系統講義テキスト」　編集：日本老年医学会　出版社：西村書店 「健康長寿診療ハンドブック」　編集：日本老年医学会　出版社：メジカルビュー社 「心不全療養指導士　認定試験ガイドブック」　編集：日本循環器学会 出版社：南江堂